

柿其(かきぞれ)川本流 南木曾

沢登り

2022年07月18日(月)

参加者：坂野、松野、宮本、佐藤Y、草田、桐林（記）



泳ぐ沢ではなかった

3連休に予定されていた信濃俣河内は、雨天のため中止になった。日月の1泊で抜ける案も出た。実際の水量を吊り橋付近で見たが、意外と少ない。しかし、ダム付近は伏流するようで、2つ目の屈曲部で結局敗退した過去があるとのこと。サブの柿其に行くこととなった。

佐藤さん曰く、泳ぐなら柿其。柳川の消化不良をここにぶつきたい。と、思っていたところ、連日の雨により増水。1日晴れを挟んでいるとはいえ、流量は平時より多いようだ。今回は、泳ぎ突破はほぼない。やはり、沢の難しさは流量にある。降水量は要チェックだ。

牛ヶ滝20mまで遊歩道を行き、滝を巻く踏み跡をたどり落口へ。いきなり流量が多く白泡立つ川に、入渓ポイントを上へずらした。その後は、白く落ちたら流されるへつり。淵の泳ぎで突破できず、右岸のルンゼを高巻いた。もう一度降り

ようとするも、チムニー8mと思われるところが越せない。その地点より上がり、林道に合流。ねじだると書かれた看板の林道屈曲部にぶつかった。高巻きでかなりトラバースを繋げたようだ。

林道を歩き落口を探すも、流量が多過ぎて諦める。本流下流域の雷滝を目指し、大垂橋を過ぎたあたりのトラロープより下降。川幅が広く顔が緩む遡行は直ぐに終わる。右岸をへつり、落ちたら一気に流されることを意識する。

1ヶ所、会長が嫌らしいへつりを率先して敢行。ここに行くのかと皆、顔を見合わせた。その後、橋の下の滝釜が深く強く突破できず、右岸を高巻いた。朽ちているが渡れる橋を見つ、直ぐに下降復帰。そして最後は、ひょんぐる雷滝。左岸をよく踏まれている道で高巻き、林道に復帰。今回は泳ぎではなく、水と戯れることはできなかった。



ひょんぐる雷滝